

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅰ 1章4-9節 ②>
問題だらけのコリントの教会に希望を見るパウロ。それはなぜか？

①7節：ただ一つの賜物さえあれば、私たちは生きていける！

パウロは、問題だらけのコリントの教会の信者たちに、「**その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく**」と語っています。なぜか？ 「**その結果**」が鍵です。その前の6節で言われたことは、イエス・キリストによる神様の救いの恵みの大きさが分かったということです。私たちは、この神様を知らなかった時、自分の賜物の多少・優劣を競い、高ぶったり嘆いたりしていました。しかし、「神様が私たちの罪を赦して下さる」という大きな「賜物」を知ったなら、それは変わります！ 自分と他人を比べるのではなく、「この神様が必ず支え生かして下さる」、と信じて生きられるようになるからです。

②神様は真実なお方、つまり、「私たちを導く」との約束は確か！

信仰には「私たちが」という面と「神様は」という両面があります。しかし、7～9節をよく読むと、パウロは「神様は」の面をより強く考えていることが分かります（7節：神様が賜物を与えて下さる。8節：神様が最後まで私たちを支えて下さる。9節：神様が私たちを主イエス・キリストとの交わりに入れて下さる）。そして、これらのことを信じていい理由として、パウロは、「**神は真実な方です**」（9）と語るのです。なぜこのように言い切れるのでしょうか？ それは、神様がなして下さった出来事を見ているからです。私たち罪深い人間のただ中に、子なる神として入り来て下さり、十字架の死に至るまで身を低くしてその罪を赦すために仕えて下さった神様。パウロはここに、「神様は私たち人間を必ず救って下さる」という「神様の真実」を確信したのです。宗教改革者たちが見出した「キリスト集中」の重要性を思われます。

③私たちが招かれた主イエス・キリストとの交わりとは何？ 教会！

「この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです」（9）。「キリストとの交わり」で、どんなことを考えたらいいのでしょうか？ 主イエスその方との神秘的な交わりを考えているわけではありません。「主の教会」に招き入れられ、そこで持つ「兄弟姉妹の交わり」をパウロは考えているのです！ 神様が用意して下さった教会とは何かをこれから考えていきます。